

## 商店街名：末広町商店街振興組合【瀬戸市、平成29年度指定】

### 1 活性化モデル商店街の概要

#### ●キャッチフレーズ

取り戻そう賑わい！思い出そうふれあい！

#### ◎商店街の将来ビジョン

##### 【現状と課題】

- ・末広町商店街は、名鉄瀬戸線の尾張瀬戸駅周辺を中心市街地に位置しており、周辺では、ArtWalkハウボウ、クロガネモチノキといった地域住民が主体となったものづくりイベントが開催されているほか、新世紀工芸館、瀬戸染付工芸館といった研修・展示施設も充実している。
- ・また、商店街周辺では平成29年6月にもものづくりを生業とする人たちを支援する施設として「せとまちツクリテセンター」が整備され、若いツクリテの商店街利用が期待されるほか、周辺小中学校の統廃合に伴う小中一貫校の開校が平成32年4月に予定されており、商店街が地域の子供たちの通学路として活用されることが予想される。
- ・しかし、若い店主による積極的な活動は見られるものの、商店街全体としては、店主の高齢化・後継者不足等に伴う店舗数の減少と顧客の高齢化に伴う客数の減少により、イベント開催時以外の平常時の賑わいは低迷している。

##### 【対策】

- ・イベントの開催などにより、魅力の発信と市内外の誘客を図るとともに、せとまちツクリテセンターとの連携などにより新たな来街者を呼び込む。  
また、地域に根差した事業展開、店主と来街者との「ふれあい」の強化を行う。

#### ◎具体的に取り組む事業内容

○取り戻そう賑わい！思い出そうふれあい！事業（29年度～32年度）

- ・ツクリテとの連携を強化し、新たな客層の誘客を図る。（30年度）
- ・子育て世代にターゲットを絞ったイベントの実施や売り出し方法を検討・実施する。（31年度）
- ・前年度に引き続き、子育て世代にターゲットを絞ったイベントの実施や売り出し方法を検討・実施する。（32年度）

## 2 活性化モデル商店街の実績・成果等

### ◎商店街の将来ビジョンの実績

様々なイベントを通じて市民やツクリテなどとの交流が生まれ、賑わいの創出につながった。また、ツクリテなどの若手起業家がイベントに参加したり、商店街の空き店舗に出店することにより、他の商店主への刺激となり、商店街全体が活気を取り戻しつつある。

また、地域に密着したイベントや文化芸術活動促進事業では商店街を小中学生などの発表の場とするなど、地域に根差した活動を行ったことで、組合員と来場者のふれあう機会が増え、商店街の魅力や活動、店舗を認知してもらうことにつながった。

※ ツクリテとは、陶芸やガラスをはじめ、木工や金工、飲食など「ものづくり」の活動を行っている方で、瀬戸市に積極的に関わり街を元気にすることを志す方。

### ◎事業実績

#### ○取り戻そう賑わい！思い出そうふれあい！事業（H29年度～R1年度）

年間を通じてイベントの開催と統一的な広報を行い、賑わいの創出と活性化を図った。具体的には、7月に「すえひろ中元セール」「すえひろ夏まつり」、9月に「すえひろ秋祭り」、10月に「すえひろハロウィン」、11月に「すえひろ子供商店街」、11月から12月にかけて「すえひろ歳末セール」、1月に「すえひろ新春初恵比寿」のイベントまたは売り出しを行った。

また、広報としては、「<取り戻そう>賑わい！<思い出そう>ふれあい」を年間事業の統一キャッチコピーに、定期的な地元コミュニティFMへの出演、新聞折り込みといった広報活動と若者が集う「タネリスタジオ」や「せとツクリテセンター」と連携して各種イベントやPR活動に取り組んだ。

#### ○末広町活性化〈取り戻そう〉賑わい！〈思い出そう〉ふれあい事業パート2（R2年度）

「暮らしツタワル 心ツナガル」をテーマに、これまでの取組によって広がった人的ネットワークの強化と店主の高齢化を補う担い手育成など、以下の事業に取り組んだ。

- ・熱意のある若者を商店街としてバックアップし、若手経営者として商店街への定着を促す「担い手スカウト事業」
- ・商店街内の広場や空き店舗等を文化・芸術活動の場として使っていただく「文化芸術活動促進事業」
- ・商店街の魅力を伝えるためのポスターやチラシを作成・配布する「商店街PR事業」

### ◎事業の効果

- ・来街者数については、新型コロナウイルスの影響で令和2年度は減少したが、令和元年度までは各種イベントなどを開催した効果もあり増加傾向にあった。
- ・空き店舗について、イベントに参加したツクリテの1部（3人）が空き店舗を活用し共同で開業している。また、現在、開業に向け準備を始めている事業者もいる。
- ・さらに、商店街の古民家を学生たちが中心となり活用に向けて準備を進めている。

### ◎新型コロナウイルス感染症を踏まえて取組んだこと

新型コロナウイルスの影響で、イベントの中止が余儀なくされたこともあり、令和2年度の通

行量は減少した。こうした中、インターネットを通じたPR活動や商品紹介などに取り組むとともに、感染予防対策を行いながら、できる範囲でイベントを開催するなどして、賑わいを取り戻しつつある。

### ◎その他の成果

- ・以前より商店街でのイベント等に関わっていたツクリテが、商店街の空き店舗を利用して開業することができた。
- ・事業実施により、商店街事業に消極的だった組合員も積極的に参加するようになった。
- ・子育て世代に人気のあるイベントを実施したことで、将来的に購買層となる年代に商店街に親しみを感じていただけた。



(すえひろサマーフェスティバル)